

授業科目	＊看護マネジメント総論					実務家教員担当科目	○				
単位	1	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	幸 史子										
授業概要	看護管理とは管理者だけでなく、看護実践者にも必要な知識と技術になっている。看護実践者としてのマネジメントの知識と応用を学び、ケアの受けてと提供者の双方が満足できる環境について考察できる力を養う。また、質の高い看護を全ての患者に継続的に提供するためには組織で取り組む必要がある。そのためには全看護師が、組織の責務や目標を把握し協働的に活動しなくてはならない。その基盤を構築するために必要となるのが看護サービスのマネジメントである。本授業では、看護ケアのマネジメント及び看護サービスのマネジメントについて講義する。更に、看護専門職としてのキャリア開発、医療安全管理等の観点から看護マネジメントを学び、「看護専門職」としての理解を深めることを目的とする。 担当者は、看護の実務経験を持ち看護管理者として長きにわたってマネジメントを実践してきた経験を持つ。										
授業形態					授業方法	アクティブラーニング（グループワーク）と ICT（動画）を活用し授業を展開する。					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	質の高い医療・看護を実践するためのマネジメントの基本を修得し、看護専門職としての理解を深めることができる。  1. 看護ケアのマネジメントの特徴について説明できる。（DP1-2） 2) 2. チーム医療や多職種連携における看護師の役割と必要とされるマネジメントについて説明できる。（DP3-1） 3. 看護サービスマネジメントの特徴について説明できる。（DP1-2） 4. 看護組織における人材育成の必要性についてまとめることができる。（DP4-1） 5. 看護専門職としてのキャリア開発の概要が説明できる。（DP1-2） 6. 医療安全管理の概要（医療安全管理体制、事故発生のメカニズム、医療安全対策、医療安全文化の醸成）が説明できる。（DP1-2） 7. あらゆる場における看護組織や人的資源管理について説明できる。（DP1-2）										
理想的レベル	標準レベルに加え、自身の学びと考えを論理的に根拠を踏まえ記述できるとともに、「看護専門職」として必要な技能を模索し自己形成を深めることができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法				評価割合（数値）		備考					
試験				80%							
小テスト				0%							
レポート				20%							
発表（口頭、プレゼンテーション）				0%							
レポート外の提出物				0%							
その他				0%							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU11208J

学習課題（予習・復習）		1 回の目安時間（時間）
授業スケジュールを活用し授業テーマに該当するテキストや参考文献を読む。 授業での学びを整理しノートにまとめる。 授業で提示された課題に関して調べ学習等を行い自身の考えをまとめる。		4
授業計画		
第 1 回	授業ガイダンス テーマ：看護マネジメントの概要 ①看護管理と看護マネジメント ②看護における歴史的変遷 ③看護ケアのマネジメント （患者の権利、チーム医療）	
第 2 回	テーマ：看護ケアのマネジメント ①看護業務の実践（看護業務とは、看護専門職としての責務、看護基準・看護手順、クリティカルパス、）	
第 3 回	テーマ：看護サービスのマネジメント 1) ①サービスとは何か ②看護サービスのマネジメントとは ③組織とは（公式組織と非公式組織）④組織と理念 ⑤組織目標達成のマネジメント ⑥目標管理とキャリアラダー ⑦組織のリスクマネジメント	
第 4 回	テーマ：看護サービスのマネジメント 2) ①人材のマネジメント ②情報のマネジメント ③看護サービスの提供のしくみ（看護単位の機能と特徴、看護ケア提供システム）④組織変革と変革理論 ⑤マネジメントに必要な知識と技術	
第 5 回	テーマ：看護サービスのマネジメント 3) ①キャリアマネジメント ②ストレスマネジメント ②看護師とワークライフバランス ③施設・環境のマネジメント ④物品のマネジメント ⑤薬品の取扱いと管理	
第 6 回	テーマ：医療・看護の質保証 1) ①医療の安全（医療事故の構造、インシデント・アクシデント、KYT、診療の補助における事故防止）	
第 7 回	テーマ：医療・看護の質保証 2)：①療養上の世話における事故防止 ②医療事故と看護師の法的責任 ③医療安全と国の施策 ④情報管理と医療安全 ⑤院内暴力とハラスメント	

第 8 回	テーマ：医療・看護の質評価と改善 ①医療サービスの質評価（サービスの対象者からの評価、サービスの提供の評価、第三者評価、保険支払いの評価）②質評価の概念枠組み
テキスト	「ナースィング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理」（メディカ出版） 「ナースィング・グラフィカ 看護の統合の実践② 医療安全」（メディカ出版）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①（医学書院）</li> <li>・系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践②（医学書院）</li> <li>・井部俊子 中西睦子著：看護管理学習テキスト 第1巻～第8巻、別巻（日本看護協会出版会）</li> <li>・P.F.ドラッカー著 上田惇生編訳：[エッセンシャル版] マネジメント 基本と原則（ダイヤモンド社）</li> <li>・岩崎夏海著：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら（ダイヤモンド社）</li> <li>・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー「なぜ間違えるどう防ぐ」（医学書院）</li> <li>・東京慈恵会医科大学附属病院 看護部・医療安全管理部編著：Team STEPPS を活用したヒューマンエラー防止策 SBAR を中心とした医療安全のコミュニケーションツール（日本看護協会出版会）</li> <li>・芳賀茂：失敗のメカニズム 忘れ物から巨大大事故まで（角川ソフィア文庫）</li> <li>・石井遼介：心理的安全性のつくりかた（日本能率協会マネジメントセンター）</li> </ul>
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートのフィードバックは、授業内もしくは Google クラスルームを活用して、その概要や記載例を説明する。</li> <li>・試験のフィードバックは成績発表後に Google クラスルームを活用して説明する</li> </ul>
学生へのメッセージ・コメント	<p>まずは基礎看護学実習Ⅱでの看護の光景を想起してみましょう。例えば日々医療現場で行われている手指消毒方法の徹底統一はだれがいつどのように行っていましたか。手指消毒剤やサージカルマスクをはじめとする個人防護具が常に不足しないようにするためには、どのようなしくみが存在しているのでしょうか。また、専門的器材をどの看護師でも安全に使用し管理できるようにするためには、どのような教育を誰が企画し実践しているのでしょうか。このような事案のルールやシステムの構築（枠組み）が行われて、はじめて円滑に迅速に必要な看護が必要な患者に提供できます。この枠組みを構築するのがマネジメントであり、マネジメントなくして質の高い医療・看護の効果的・効率的・継続的な提供はありません。</p> <p>また、組織においては、よりよい人間関係を構築するために、様々な工夫や配慮が必要です。看護において、質の高いマネジメントが実践できるようになるために、様々なマネジメントの技法やスキルをこの授業で学んでいきましょう。</p>

